

津市版

授業改善マニュアル

実践編

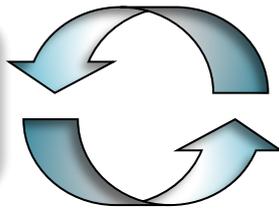
平成28年11月

津市教育委員会

児童生徒の学力向上

教員における授業スキルの継承 授業力の向上

多くの教員の参画
毎年の改訂作業実施



マニュアルを使った
研修会の実施

津市版授業改善マニュアル

大学教授等

助言

津市教育委員会事務局
指導主事等



できる！わかる！
楽しい！

連携・協働

市内学校教員

各教科（別冊）

- ・教科における授業力向上の視点
- ・具体的事例



授業改善総論

- ・授業力向上の視点
- ・ユニバーサルデザイン
- ・授業力向上の構成要素
- ・児童生徒理解
- ・教材解釈授業展開
- ・授業作りの基盤
- ・授業構成
- ・授業評価
- ・学習形態

その他の視点

- ・家庭学習の提示
- ・参考資料
- ・各学校資料
- ・教育委員会資料



21世紀型学力の向上

教員の資質向上

学習指導要領の解釈

『授業改善マニュアル』（実践編）の活用に向けて

現在の小中学生が社会で活躍する近未来においては、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新、少子高齢化の加速化など、社会情勢が大きく様変わりしていくことが予想されます。

こうした中、一人一人が生涯にわたって能動的に学び続けることにより、時代に即応した様々な力を獲得するとともに、直面する課題に対して、他者と協働しながら解決に向け、果敢に挑戦し、新しい価値を創造することで、より豊かな未来を切り開いていくことが求められています。

そのためには、将来を見据えた教育のあり方自体をよりの確に捉え、進展させる必要があります。特に学校教育において、「学ぶこと」と「社会」とのつながりを意識し「何を教えるか」という知識の質と量の改善に加えて、「どのように学ぶか」という、学びの質や深まりを重視する必要があります。

また、学びの成果として「どのような力がついたか」という視点が重要であり、自己と社会の関係性を自覚し、よりよい社会の実現に向け、未来へ飛躍できる人材を育成する必要があります。

そこで、これまでの授業のあり方を見直し、授業力を高めるための基本的な考え方と各教科での具体的な実践方法について、『授業改善マニュアル「理論編」・「実践編」』（別冊「教科編」）にまとめました。

この『授業改善マニュアル（実践編）』では、授業づくりに必要な要素（児童生徒理解、授業構成、教材解釈、授業展開、授業評価）や授業づくりの基盤（板書、ノート指導、机間指導、教育環境）等について、具体的な事例等を紹介しています。

学校全体で有効に活用し、児童生徒が「わかること、できること」を実感できる授業改善の取組が推進され、津市の未来を担う子どもたちが確かな学力を身につけられるよう、取組をお願いします。

平成28年11月
津市教育委員会



津市版授業改善マニュアル 目次



第1章	授業づくり		
1	児童生徒理解	・・・	2
2	授業構成	・・・	4
3	教材解釈	・・・	11
4	授業展開	・・・	14
5	授業評価	・・・	25
第2章	授業づくりの基盤		
1	板書	・・・	34
2	ノート指導	・・・	39
3	机間指導	・・・	43
4	教育環境	・・・	45
第3章	ユニバーサルデザイン	・・・	48
第4章	学習形態	・・・	54
	参考津市版授業改善マニュアルの活用について	・・・	60
	索引	・・・	63

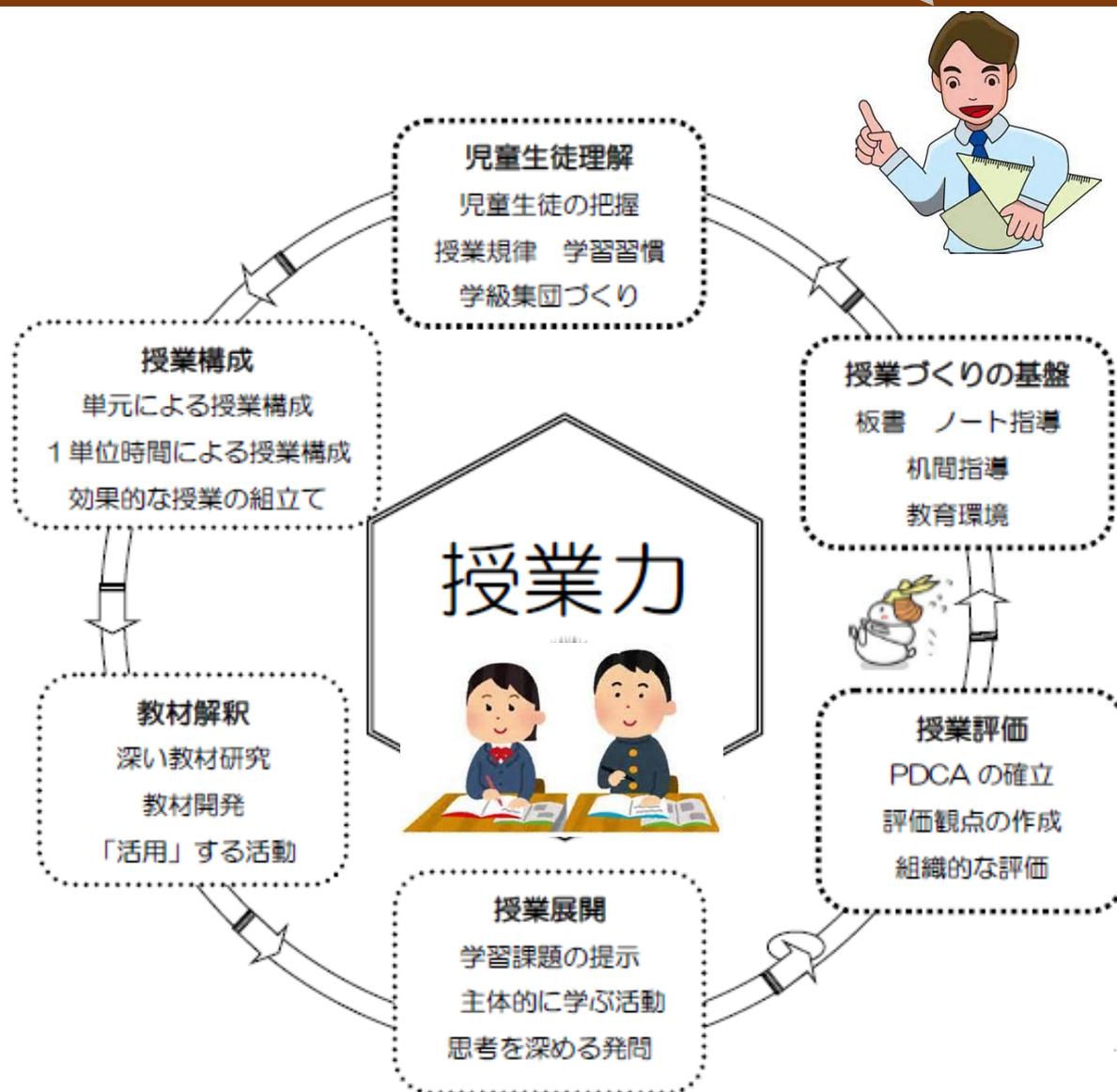


- 学力向上のための取組の検証
- 教員の資質・能力
- 授業力向上の視点
- 授業力向上の構成要素
- 家庭学習の提示
- 教育の目指すところ
- 学習指導要領の解釈
- 子どもにつけさせたい力
- 授業改善とは
- 参考資料

第1章 授業づくり

- 1 児童生徒理解
- 2 授業構成
- 3 教材解釈
- 4 授業展開
- 5 授業評価

教師は授業で勝負！



第1章 1 児童生徒理解



なぜ児童生徒理解が大切なの？

授業は、その時間の学習目標をいかに達成し、子どもにどのような力を身につけさせていくかを考えて行われ、教員には基本的資質として、子どもたちの特性や学習環境等の実態を的確に捉え対処する力が必要です。



POINT

児童生徒理解のキーワードは、「特性」、「学習集団」、「指導の改善」です。

- ◇新しい単元に入る前に、クラス全体の子どもたちの実態を把握し、単元計画を立てましょう
- ◇「わかる・できる」授業づくりにつなげよう

1 児童生徒の実態把握のプロセス

子どもたちの何をどう把握すればよいのでしょうか。「おとなしく、自分から積極的に発言することは少ない」など、情緒的な側面のみの把握になっていませんか。教科等の特性を踏まえた上での、客観的な把握に努めましょう。

プロセス①

- 前単元での児童生徒の指導事項（内容）に関する学習到達状況を把握するとともに、どのような指導を行ってきたかを振り返ります。
- 必要に応じてレディネステストなどを行い、児童生徒のスタートラインを確かめます。

プロセス②

- 学習到達状況の到達率が低い指導事項（内容）を明らかにします。

プロセス③

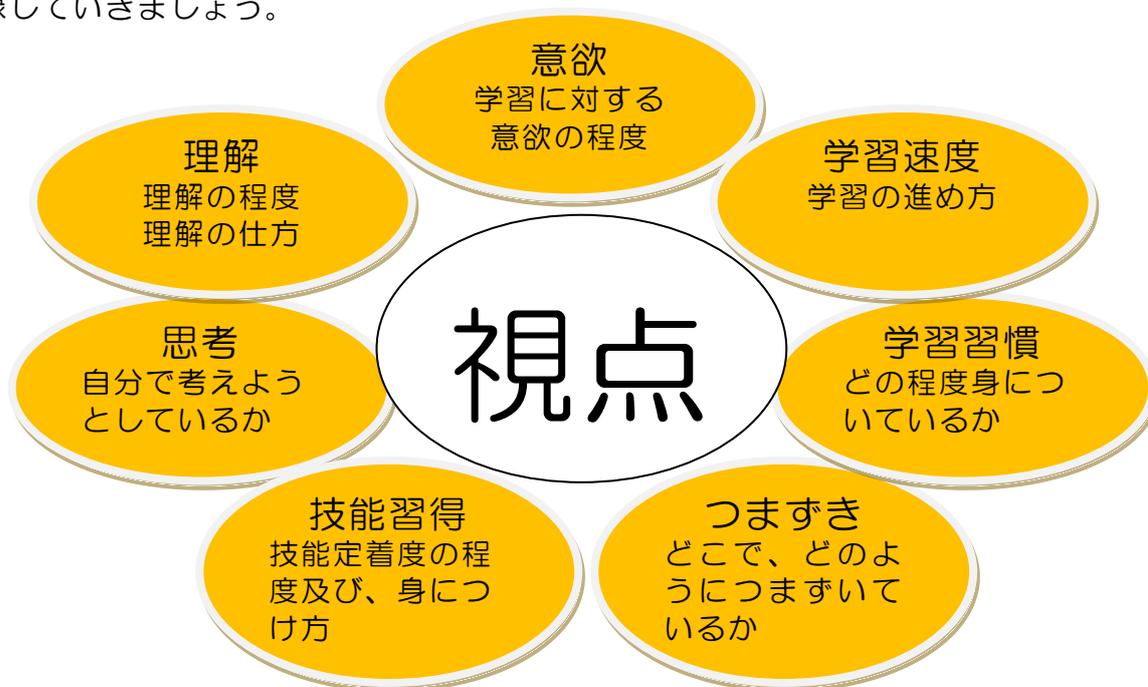
○到達率が低い状況にある原因を追及します。

プロセス④

○児童生徒の現状を打破するために、本単元でどのような課題を与えどう活動させるかを考えます。

2 個人の学習状況を把握する視点等

個人の学習状況を把握し、子どもたち一人一人の記録簿等を用意し、継続的に記録していきましょう。



児童生徒の実態を把握する手段

- 授業中の目についた行動や発言から
- 発言やつぶやきの内容から
- 作文やノートの記述内容から
- テストの結果から
- 家庭学習の習慣やその内容から
- 自習時間の学習態度や学習成果から
- 児童生徒との面接から
- 担任以外の教師の情報から など

**なぜ、授業構成が必要なの？**

よい授業をするためには、その授業を通して、子どもたちにどのような力をつけていくのか、ある程度のまとまりで授業を考え、構成することが必要となります。

**POINT**

どうしたら効果的に子どもたちが目標を達成できるかを考えながら、授業構成を考えましょう！！

- ◇「単元全体を通した授業構成」ができていますか？
- ◇「1単位時間の授業構成」ができていますか？

1 「単元全体を通した授業構成」ってどうするの？

単元の目標や主題に沿って、児童生徒の実態、教材解釈、授業展開、評価等からなる指導計画を組み立てます。

単元を構成する場合は、単元を通して力がつけられるように、単元全体で子どもたちがどのように学習を積み重ねるのかを考え、授業を構成します。

また、単元の指導の中で、指導を通して見えてきた児童生徒の実態や指導の工夫などを単元計画に活かしながら、改善をしていくことも大切です。

実践された授業を分析することは大切ですが、「授業をどうつくるか」という段階により一層力を注いでいくことは、事後の分析が深まり、授業改善の更なる充実につながっていくと考えられます。

単元全体を通した単元構成（授業づくり）

単元の目標設定

学習指導要領にある指導すべき内容や年間指導計画での位置づけ等を確認し、児童生徒の実態等をふまえ、本単元で指導すべき目標を設定します。

評価基準の設定

単元の目標が実現した状態、観点ごとに具体的な児童生徒の姿を想定し、評価基準を設定します。

評価基準については、国立教育政策研究所等の資料を参考にすると良いでしょう。

単元計画の作成

単元を通して、児童生徒にどのような力をつけていくのか、単元全体のバランスを見て評価基準を位置づけます。

本時計画の作成

本時の目標、学習課題、評価の方法等を検討します。学習活動のどの場面で児童生徒の変容を見取ることができるのかなど、事前に学習活動を構想することが大切です。

学習活動の設定

単元目標や単元計画の中の1時間という捉えで、予め想定した児童生徒の姿が実現できるような学習活動を設定します。

【単元全体を通した授業構成の例】

面積のはかり方と表し方

「9 広さを調べよう」（小学校4年生算数科 東京書籍）

（指導時間数 11時間）

時	目標	学習活動	評価基準
1	広さのくらべ方をいろいろな方法で考え、くらべることができる。	<ul style="list-style-type: none"> • じんとりゲームの結果から、各じん地の広さのくらべ方を考えよう。 	<ul style="list-style-type: none"> • いろいろな方法で広さの比べ方を考えようとしている。
2	面積の単位「 cm^2 （平方センチメートル）」を知り、面積の意味を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> • じんとりゲームの各じん地の面積を考えよう。 	<ul style="list-style-type: none"> • 面積の意味や単位を理解している。
3	長方形、正方形の面積を計算で求める方法を理解し、面積を求める公式を考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> • 長方形、正方形の面積を計算で求める方法を考えよう。 • 長方形、正方形の面積の公式を知ろう。 	<ul style="list-style-type: none"> • 面積は、たて、横の辺の長さから、計算で求められることを理解している。
4		<ul style="list-style-type: none"> • 公式を用いて、長方形、正方形の面積や辺の長さを求めよう。 • 周りの長さが等しくても長方形や正方形の面積が異なる図形があることを知ろう。 	<ul style="list-style-type: none"> • 面積の公式を用いて、長方形や正方形の面積を求めることができる。
5	既習の長方形や正方形の面積を求める学習を活用して、長方形を組み合わせた図形の面積を求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> • 長方形を組み合わせた図形の面積を、分割したり、補ったりするなど、いろいろな方法で求めよう。 	<ul style="list-style-type: none"> • 既習の長方形や正方形の形をもとにして、面積を求めることができる。

時	目標	学習活動	評価基準
6	面積の単位「 m^2 (平方メートル)」を知り、辺の長さがメートル(m)でも、長方形、正方形の面積の公式が適用できることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> • 辺の長さがメートル(m)の長方形や正方形の面積の求め方を、公式を適用して考えよう。 	<ul style="list-style-type: none"> • 辺の長さがメートル(m)の長方形や正方形の面積も、公式を適用して求められることを理解している。
7	1 m^2 は何 cm^2 であるか理解する。	<ul style="list-style-type: none"> • 1 m^2は何cm^2になるか調べよう。 	<ul style="list-style-type: none"> • 1 m^2は10000cm^2であることを理解している。
8	面積の単位「アール(a)」「ヘクタール(ha)」「平方キロメートル(km^2)」とその相互関係を理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> • 1 辺が10m や100m の面積が、何 a や何 ha となるか考えよう。 	<ul style="list-style-type: none"> • 100m^2は1 a、10000m^2は1 ha であることを理解し、面積を求めることができる。
9		<ul style="list-style-type: none"> • 1 辺が km 単位の面積の求め方を考えよう。 • 1 km^2は何m^2になるか調べよう。 	<ul style="list-style-type: none"> • 1 辺が km 単位の面積も公式を適用して求めることができる。 • 1 km^2は1000000m^2であることを理解している。
10	<p>学習内容を適用して問題を解決することができる。</p> <p>算数的活動を通して、理解を深め面積についての興味を広げる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 「力をつけるもんだい」に取り組もう。 • 「やってみよう」に取り組もう。 	<ul style="list-style-type: none"> • 学習内容を適用して、活動に取り組もうとしている。 • 学習内容を適用して問題を解決することができる。
11	学習内容の定着を確認し、確実に理解する。	<ul style="list-style-type: none"> • 「しあげ」に取り組もう。 	<ul style="list-style-type: none"> • 学習内容を確実に身につけている。

2 「1 単位時間による授業構成」ってどうするの？

日常生活や他教科等の学習との関連を意識して、1 単位時間の授業を構成します。

各時間の授業の位置づけを確認し、どうしたら効果的に子どもたちが、目標を達成できるかを考えましょう。

1 単位時間の授業構成（起・承・転・結）

起 めあての設定

- めあて設定のポイント例
- めあて提示の工夫例
- めあての工夫例

実践編P. 15~16

承 主体的な学びを促す工夫

- 主体的に学ぶとは
- 主体的に学ぶ学習指導の前提
- 主体的に学ぶ意欲を引き出す学習指導例

実践編P. 17

転 発問や指示の吟味

- 発問とは
- 発問の要件
- 発問の種類
- 各指導過程における発問の構成
- 「質問」と「発問」、「指示」の違い
- 「質問」と「発問」の留意点
- 「質問」と「発問」の具体例

実践編P. 17~P. 21

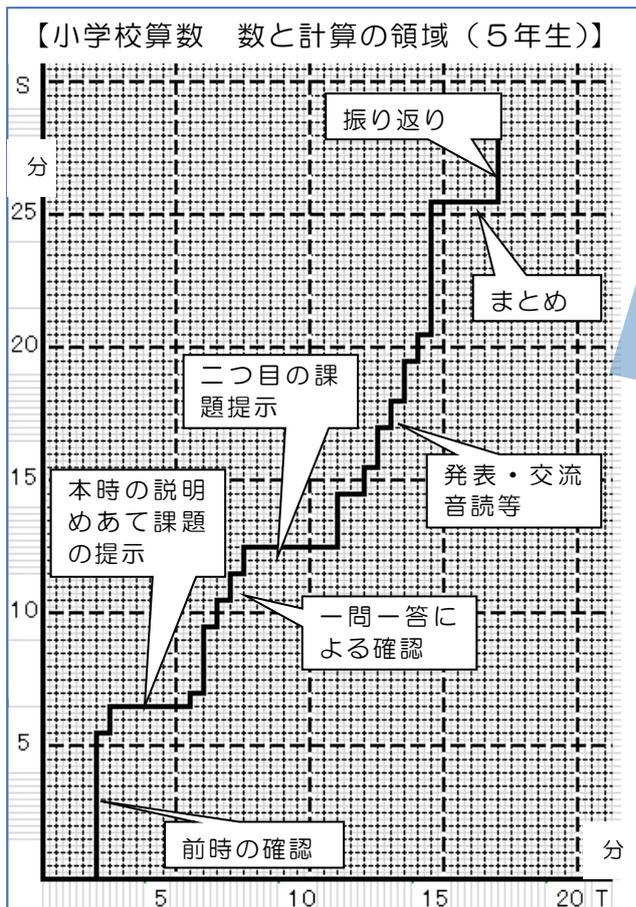
結 振り返りの充実

- 「振り返り」の実践例
- 「まとめ」と「振り返り」は区別する
- 「めあて」は「振り返り」と対応させる
- 「めあて」に対する振り返りを位置づける
- 方法・頻度・タイミングは柔軟にする

実践編P. 21~P. 24

子ども主体の授業になっていますか？

S-T分析とは、1時間の授業を児童生徒の活動時間と教員の活動時間という2つのカテゴリーで分析し、それぞれの時間を累積の折れ線グラフで示すものです。下のグラフは市内小学校の授業を分析したものです。



【S-T グラフ】

「横なが」のグラフの場合
 →「教員の活動時間が長い」ということです。

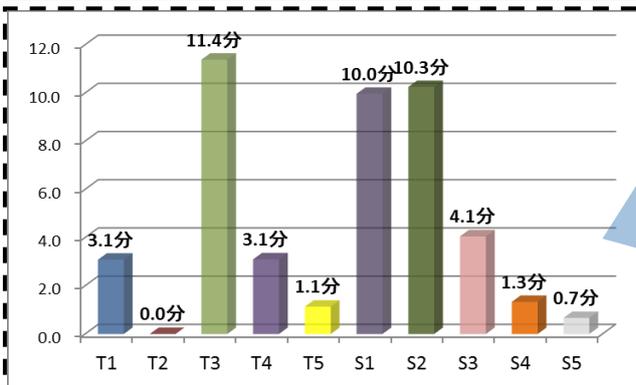
→教員の活動時間が長いということは、子どもたちが受動的にならざるを得ません。

「縦なが」のグラフの場合

→「児童生徒の活動時間が長い」ということです。

→意図的に子どもたちの活動時間を確保することにより、子どもたちは、考えたり、説明したりするなど、能動的に取り組めます。

どこに時間をかけていたのかがよくわかり、授業改善のデータとして活用できます。



【活動グラフ】

どの活動に時間をかけていたかを、棒グラフで表したものです。一時間の活動内容を振り返ることができます。

この分析ソフトは OURS に入っておりますので、各校での授業改善研修に活用することができます。

T1 思考を促す発問
 T2 支援・援助等
 T3 解説説明指示等
 T4 板書・範読等
 T5 その他

S1 一人での思考場面
 S2 考えの発表・交流場面
 S3 一問一答
 S4 音読・実験等
 S5 その他

(参考) S-T 分析 「大阪の授業 STANDARD」 大阪府教育センター

子どもの活動時間を確保すると・・・

子どもに次の4つの活動が保障されます。

- ・ 一人で学習課題に向き合う活動
- ・ グループでの学び合いの活動
- ・ 全体で、お互いの考えを練り上げる活動
- ・ 自分で振り返る活動

◆————◆ チェックリスト ◆————◆

- 学習指導要領の各教科等の目標や内容を理解している。
- 学習内容に関する児童生徒の実態を把握している。
- 学習指導要領の目標や内容をふまえ、児童生徒の実態に応じた単元目標を設定している。
- 単元を通して力がつけられるように、授業を構想している。
- 単元目標に応じた評価基準を設定している。
- どのように児童生徒の発言や行動を評価するのか、事前に計画を立て、評価している。
- 1単位時間の授業において、日常生活や他教科等の学習との関連を意識した授業を構想している。
- 個別に支援を要する児童生徒の配慮事項等も考え、授業を構想している。

第1章 3 教材解釈



なぜ、教材解釈が必要なのか？

教材解釈を丹念に行うことで、授業のねらいを明確にするとともに、どのようなタイミングでどういう発問をしていけば良いか、また内容を精選してどのように提示していけば、本時の学習がスムーズに理解されるのか、児童生徒の興味関心、発達段階に応じて、授業を組み立てていくことができるからです。



POINT

「教材解釈」によって授業が変わる！
「教材解釈」が変われば授業が変わる！

- ◇ 教材文を何度も読み込んでいますか？
- ◇ 一つ一つの言葉に立ち止まり、一つ一つの言葉を大切に、解釈しようと心がけていますか？
- ◇ 子どもたちが、あれこれ考えざるを得ない発問を工夫していますか？
- ◇ 校内で「教材解釈」について、意見交換をするなどの時間をもっていますか？

授業をする際に教材をしっかりと読み込んでいますか？

例えば、算数の教科書にある「問題文」に「イラスト」が添えられていた場合、それらがなぜ添えられているのか考え、それらを活用して指導しようとする工夫をしていますか？

子どもたちに昆虫の観察をさせる場合に、どのような活動から入っていけば、子どもたちにとって、より多くの学びにつながるか等を考えながら、言葉かけをしていますか？

指導書に書いてあることに目を通し、そこに書いてある通りの授業に頼っていませんか？

同じ教材でも「教材解釈」の違いで、授業の方向性や子どもたちの学びが全く異なってきます。



1 教材研究をしっかりと行いましょう！

授業を効果的に行うには、事前の準備が必要不可欠です。

すなわち、教材研究とは、学習内容を、児童生徒の実態をふまえて、学習指導要領等に基づき咀嚼・解釈して、教え・学ばせる材料に仕上げるために行います。

子どもたちの理解を援助するために、教材、教具を準備することはもちろんのこと、教科書の

「どの部分を」、「どのように」、「どのタイミング」で教えていくのかを丹念に計画する必要があります。

教材研究において、1時間の授業をどう展開するか、周到に準備するか否かで、授業の成否が決まります。

教材研究の方法としては、主に「児童生徒観」、「教材解釈・教材開発」、「指導観」の3つがポイントとなります。



1 児童生徒観

学級によって児童生徒の個性は様々です。

視点を当てる児童生徒についても、どんな場面で活躍できるのか、どのような援助をすれば積極的に参加できるのか、観察する必要があります。

例えば、子どもたち一人一人の小さな変化も見逃さずに、教師用カルテ等に記入していくと、いつもアップデートされた「児童生徒観」をもつことができます。

2 教材解釈・教材開発

教材解釈は、教材を丹念に読み込み、何に焦点を当てるか考察することが大切です。また、教材の背景等について調べ、関連分野の情報を集め、教材を丁寧に解釈していきます。授業は、教材の解釈によって、発問の内容や構成が変わり、授業の方向性も変わってきます。

一方、教材開発は、教材解釈した内容を目の前にいる児童生徒にどのように活動させていけば良いか考えることです。活動ごとに児童生徒の顔を思い浮かべ、子どもたちの適性や興味関心に合致しているかどうか考えます。

3 指導観

指導観は、教材を解釈した内容を、目の前の子どもたちにどのように指導するのかということです。

つまり、ここに一番教師の信念が表れます。

授業のねらいから逸れないように注意しながらも、学級や子どもの状態、学校行事等との関係によって、指導過程における活動の順番の入れ替えや活動内容の変更、活動時間の短縮や拡大など、様々な配慮が必要です。

2 「教材解釈」によって授業が変わる！

「教材解釈」が変われば授業が変わる！

教師自らが、教材と向き合い、教材を読み込む中で、様々な気付きと出会うはずで、教材解釈をしっかりと行うことにより、指導方法が具体的に考え出され、効果的な発問が生まれます。

授業は、教師の教材解釈の高さとか深さとか、立ちむかい方とかによってほとんどきまってしまうのである。

教師が教材に対して自分の解釈を持ち、課題や問題を持ち、それらのなかからつくり出した自分のイメージをもっていけば、授業はすでに展開し成立したと言っても言いすぎではない。

授業は、教師のもっている観念的な既成の月並みな知識を、単に子どもに機械的・形式的にわからせるだけのものではない。そうではなく、対象である教材の中にある具体的で複雑な事実をもとにし、教師と子どもがいっしょになって追求し、発見したり、獲得したり、自分を変えていったりする作業である。

「あなたの授業が生きる 授業と教材解釈」 斎藤喜博（元宮城教育大学教授）より

●—————● チェックリスト ●—————●

- ◇ 一つ一つの言葉に立ち止まり、一つ一つの言葉を大切に、解釈しようと心がけている。
- ◇ 子どもたちが、あれこれ考えざるを得ない発問を工夫している。
- ◇ 校内で「教材解釈」について、意見交換をするなどの時間をもっている。

第1章 4 授業展開



「教えて、考えさせる授業」をめざそう！

知識は、子どもたちが自ら考えることの妨げになるものであるとの理由から「教師はあまり教えずに、子どもに考えさせるのがよい授業である」とみなされ、「教師が教えずに考えさせる授業」が推奨される傾向があります。

しかし、知識（基礎的な内容）があっても、さらに広く、深く考えること（発展的な課題）ができるのではないのでしょうか。



なぜ、「教えて考えさせる授業」なの？

国が求めている力「習得・活用・探究」を子どもたちにつけさせる授業づくりを目指す時、自ら学び、自ら考える力の育成（いわゆる探究型の教育）に視点を置いた授業の組み立てを考えます。

その前段階として、基礎的・基本的な知識・技能の育成（いわゆる習得型の教育）が、実は重要な視点です。

この2つの型は、対立的あるいは二者択一的にと捉えるべきものではなく、この両方を総合的に育成する具体的な教育実践を考えることが、これからはとても重要となってきます。

つまり、教えて、考えさせる過程を重視した授業が基本となってきます。（理論編第5章 授業力向上の視点参照）

【教えて考えさせる授業が提唱された背景】

○旧タイプの「わからない授業」:「詰め込み」「教え込み」

子どもの興味・関心や理解度を無視して教師が一方的に知識を教え込む。

→説明ばかりなのでわからない、つまらない。

○新タイプの「わからない授業」:「教えずに考えさせる授業」

教師がほとんど説明せず、基本的な知識をもっていない状態で「自分で考えましょう」「みんなで考えましょう」という展開、子どもの発言が間違っているにもかかわらず、正しい知識や考え方を教える場面がほとんどない。
(自己発見を重視するため)

→何が正しいのかも分からないため、つまらない。

どちらも「何がわかったかがわからないので、充実感がない」

→ この状態を解消する 「教えて考えさせる授業」



POINT

- ◇「めあて」を必ず設定しよう
- ◇主体的な学びを促す工夫をしよう
- ◇発問や指示の意味を理解し、吟味しよう
- ◇「振り返り」を充実させよう

▶▶▶ 「めあて」を必ず設定しよう

「めあて」とは、学習者である児童生徒が、その単元（題材）やその時間で、「何を」「どのように学ぶのか」を具体的につかむことができるものです。

そのため、学習への意欲や見通しをもつためには、「めあて」を提示する授業の導入部分が重要な場面となってきます。授業者は、学びへの誘いをいかにスムーズに、そして効果的に仕組むかが大切な視点となります。

【めあて設定のポイント例】

- ア 授業のねらいを明確にする
- イ 解決する必要性がある
- ウ 学習の道筋とゴールを明確にする
- エ 子どもの生活体験や経験に結びつける
- オ 多様な考え方ができる
- カ 少し難しいと感じられる など

子どもたちが「めあて」をしつかりと認識していることが、重要なカギになるよ。



【めあて提示の工夫例】

- ア 実物や映像、写真等、視覚に訴える資料を提示する
- イ 教示や実験等で驚きを感じさせるなどの工夫をする
- ウ 既習事項と比較させ、違いを明らかにする
- エ 前の時間に学習したことを想起させる
- オ 日常生活と関連づけて課題を提示する など

【めあての工夫例】

例えば

【小学校6年家庭科】 「朝食を考えよう」
ねらい：簡単で栄養バランスがとれ、家族のふれ合いを深めるための朝食献立を考えることができる。

【例1】教科書の見出しそのままのもの

【例2】めあてに工夫を加えたもの

【めあて】

栄養を考えた朝食にしよう

- C「栄養のある物って何があるかな。」
- C「野菜をいっぱい使うといいのかな。」
- C「栄養バランスなんて、なんだか、難しそうだ。」

【ポイント】

・どうしても、「栄養」という言葉にとらわれて、本時のねらいである「家族のふれ合い」というめあてに迫ることは難しい。

【めあて】

家族が元気もりもりになる朝食メニューを考えよう

- C「ピーマンが嫌いな弟のために、ピーマンを細かく刻んで、このまゑ実習をした炒り卵にしようかな。」

【ポイント】

・それまでに学習した知識や技能を使い、「家族のふれ合い」「家族が元気になる」ことを思い浮かべ、めあてに迫ることができる。

▶▶▶ 主体的な学びを促す工夫をしよう

【主体的に学ぶとは】

自分の意思や判断に基づいて、自ら考え、目標に向かって学習することです。主体的な学びを促す工夫として、「教材の工夫」、「指導形態の工夫」、「指導場面の工夫」の3つを心がけましょう。

【主体的に学ぶ学習指導の前提】

児童生徒の主体性は、興味・関心・意欲などの心情的な側面の意識を高めることによって育ちます。基礎基本をしっかりと教え、児童生徒の「面白そうだ」「やってみたい」等の興味や関心を引き出して、意欲を高めることができれば、子どもは主体的に学習に取り組むことができます。そのためには、その学ぶ意欲をうまく引き出すための学習指導が必要となります。

【主体的に学ぶ意欲を引き出す学習指導例】

- ・ 教材の工夫（できそうだと感じ、最後まで追求できる課題か）
- ・ 指導形態の工夫（個に応じた指導もできる形態か）
- ・ 指導場面の工夫（集中して取り組む学習環境であるか）

▶▶▶ 発問や指示の意味を理解し、吟味しよう

【発問とは】

授業中に教師が行う意図的な問いかけのことを言い、授業構成の核となる非常に重要な指導技術です。

適切な発問を行うことにより、児童生徒の「なぜ？」を誘発し、考えを見つけ、自分の意見をふまえた考えをまとめるという働きをもっています。

これにより、児童生徒が主体的に課題意識をもったり、学習意欲を高めたりすることにつながります。

【発問の要件】

- ア 何を問うているのかがはっきりしていること
- イ 簡潔に問うこと
- ウ 平易なことばで問うこと
- エ 主要な発問は、準備段階で「決定稿」にしておくこと
- オ 矢継ぎ早に追加の質問（補助発問）をしないこと

【発問の種類】

発問は、「主発問」と呼ばれる主要な発問と「補助発問」と呼ばれる追加の発問の、2つに大きく分けることができます。

○主発問・・・本時の目標にかかわる中心的な発問

○補助発問・・・主発問を補ったり、詳しくしたりする発問

【各指導過程における発問の構成】

授業の展開を作り上げるうえで、導入・展開・まとめに即してそれぞれに、主発問や補助発問を考え、児童生徒の多様な考えを引き出し、思考を揺さぶり深めるよう工夫します。

ア) 導入段階では	学習目標や内容に積極的に取り組む意欲を持たせる発問
イ) 展開段階では	児童生徒の考えをもとに教材の中心に迫る発問
ウ) まとめ段階では	今後の学習の発展につながるような発問

さらに詳しく説明すると、次のような発問です。



ア 〔導入段階では〕

- ・これから展開される学習内容に対して興味、関心を喚起する発問
- ・学習のねらいや課題を明確に理解できるようにする発問
- ・設定した学習課題に基づいた学習計画を立案できるようにする発問
- ・事前に学習の仕方や学習の対象を選択でき、自分なりに追究できるようにする発問

イ 〔展開段階では〕

- ・追究していくための方法や学習対象を明確にできるようにする発問
- ・追究の過程で修正ができるようにする発問
- ・常に学習課題に立ち戻って追究できるようにする発問

ウ 〔まとめ段階では〕

- ・学習したことを確実にとらえられるようにする発問
- ・友だち同士で学習成果を比べられるようにする発問
- ・まとめた学習成果を発信できるようにする発問

【「質問」と「発問」、「指示」の違い】

「質問」・・・子どもが本文を見ればわかるもの

「発問」・・・子どもが考え、知るという過程を経るもの

「指示」・・・作業の確認を促すもの

【「質問」と「発問」の留意点】

- ・ 学年や場面によっては、「質問」によって確認することが必要な場面もありますが、そればかりだと児童生徒の学習意欲を低下させます。
- ・ 一問一答とならず、子どもたちの間で関連発問ができるようにする。
(対面1対1のピンポン型より、多人数双方向のバレーボール型)
- ・ 答えが「はい・いいえ」「そうです・ちがいます」とだけにならないようにする。

【「質問」と「発問」の具体例】

- ・ 本文を見ればわかる「質問」は a と b と一部 c です。
- ・ 思考認識過程を経る「発問」は一部 c と d です。

	問いかけ	応答	考察
a	・ 桃太郎は鬼ヶ島へ行ったのですか？	・ はい。	・ 子どもの考える余地がない。
b	・ 桃太郎はどこに行ったのですか。 ・ 鬼ヶ島へ何をしに行ったのですか。	・ 鬼ヶ島へ。 ・ 鬼退治に。	・ 一問一答で終わる。 ・ 本文を見ればわかる。
c	・ 桃太郎は何をしましたか。 ・ 桃太郎はどのようにして鬼退治をしましたか。	・ 鬼ヶ島の鬼を退治した。 ・ 犬と猿と雉と力を合わせて。	・ 桃太郎の行動を子どもが自分のことばでまとめている。
d	・ どんなお話しですか。	・ 桃太郎が犬と猿と雉と力を合わせて鬼ヶ島の鬼を退治した話。	・ 「力を合わせて」という内容価値とともに、あらすじも述べている。

(出典 文部科学省ホームページより抜粋)

【発問マスター六箇条】

- 1 授業の目標や教材の核に迫ることのできる発問
- 2 一人一人の児童生徒の実態に即している発問
- 3 児童生徒の思考力を触発する発問
- 4 児童生徒がもっている観念に揺さぶりをかける発問
- 5 新たな考えを引き出すことが可能な発問
- 6 多様な反応が期待できる発問

【上級発問マスターへの道】

大造じいさんは、花の下に立って、こう大きな声でガンによびかけました。そうして、残雪が北へ北へと飛び去っていくのを、晴れ晴れとした顔つきで見守っていました。

いつまでも、いつまでも、見守っていました。

「大造じいさんとガン」より

（初級発問） 「大造じいさんは、どんな顔つきで見守っていましたか。」

（中級発問） 「『晴れ晴れとした顔つき』になった、大造じいさんの気持ちは。」

（上級発問） 「なぜ、大造じいさんは、『晴れ晴れとした顔つき』になったのでしょうか。」

次の日も、その次の日も、ごんは、くりを拾っては兵十のうちへ持ってきてやりました。

その次の日には、くりばかりではなく、松たけも二、三本、持っていきました。

「ごんぎつね」より

（初級発問） 「ごんは、何を兵十のうちに持っていきましたか。」

（中級発問） 「兵十のうちにくりや松たけを持っていったごんの気持ちは。」

（上級発問） 「何日も兵十のうちにくりや松たけを持っていったごんの心情を考えよう。」



授業の中で、発問はとても重要です。
自分の普段の授業を振り返って、発問についてチェックしてみましょう！

□ 思いつきで、矢継ぎ早に問いかけてはいませんか？

☆ 発問を構成する際には、児童生徒の実態を考慮して、ことばを厳選して、明確な意図をもって問いかけましょう。

□ 答えを言ってしまっていないですか？

☆ 「〇〇くんは、腕を大きく振って走っていたよね。速く走るコツはどこにあるのかな。」など、教師が意図する答えや感想を含んだ発問は、児童生徒の思考を促すことにつながりません。

「どうして、〇〇くんは、早く走ることができるのかな？」「みんなとの違いはどこかな？」というように、発問を変えて問いかけましょう。

□ ヒントが具体的過ぎて、作業のようになっていませんか？

☆ 「抜き出しの答えは、1行目から3行目です。わかった人は手を挙げましょう。」のような発問は、出すヒントを限定しすぎて、作業的な活動になっています。「抜き出しの答えは、黒板に書いてあります。隣と相談して、意見が一緒だった人は手を挙げましょう。」というように、焦点の絞り方や提示の仕方を工夫しましょう。

□ 感情を混同した発問をしていませんか？

☆ 授業に集中できない児童・生徒に対して「〇〇さん、今日の授業で何をするのか教えてください？」など、脈略を無視した発問は避けましょう。



「振り返り」を充実させよう

授業の終わりに、児童生徒が自ら身についた知識や技能を確認したり、自分の考えを整理したりすることで、学習内容が確実に定着し、今後の学習への見通しを立てたり、意欲を高めたりすることができます。

また、教師は、児童生徒の振り返りをもとに、次時の学習での話し合いや導入のあり方について考えることができます。

【振り返りの実践例】

ア 自分の考えを文章でまとめる

- ・ 友達の意見を聞いて、自分の考えを見直す。

例) 「〇〇さんの意見を聞いて、～と考えました。その訳は、～です。」

- 今日の学習のねらいに沿ってまとめる。

例) 「〇〇」というキーワードを必ず入れて、考えをまとめる。
「〇〇」という言葉から書き始める。

- 考えと理由を書く。

例) 「私は、～と考えます。その訳は～です。」

- 新たな課題や今日、わからなかったことをはっきりさせる。

例) 「次の時間に考えたいことは～です。」

イ ワークシート等で自己評価する

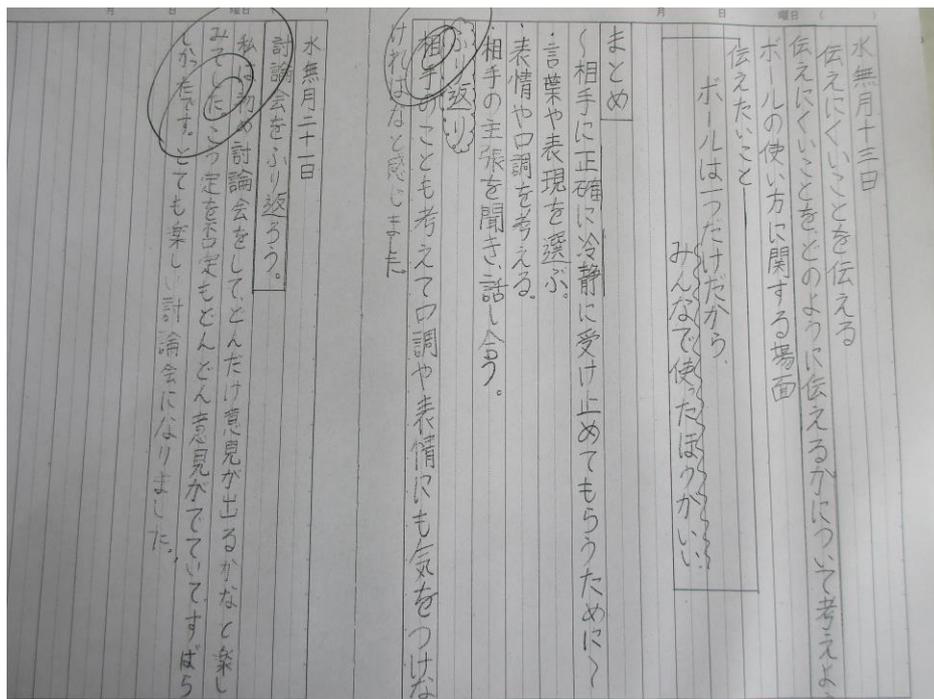
- 授業者が児童生徒に身につけさせたい力を観点として提示し、児童生徒が自ら自己評価する。

ウ その他

- 類似問題や発展問題に取り組む。
- ペアやグループで、わかったことや次時の課題を話し合う。
- 本時の学習をふまえて、もう一度、音読や活動をする。
- 関連する本を読む。

【振り返り実践例】

(ノートによる振り返り)



(プリントによる振り返り)

話し合いの目的
(よりよいくらしのために自分たちに行えることを
考えながら話し合いができましたか。)

話す準備をしてきましたか。
友だちの意見をしっかりと聞き合い、受け止めることが
できましたか。

質問や意見を出すことができましたか。

よかったところ

むずかしかったところ

☆ グループ協議について振り返ろう。
😊
😐
😞

明日をつくるわたしたち

振り返りのPOINT

【「まとめ」と「振り返り」は区別する】

「まとめ」は、設定した課題に対する答えやゴールになるものを、授業者が主体となって整理するものと考えます。

児童生徒が行う「振り返り」とは主体が異なります。

【「めあて」は「振り返り」と対応させる】

「～を考える」「～を調べる」という「めあて」は、「振り返り」が曖昧になります。「～がわかる」「～ができるようになる」という「めあて」なら「振り返り」がはっきりします。

児童生徒が振り返った内容から、授業の目標（ねらい）の達成状況を確認し、次の授業や補充学習・家庭学習につなげます。

【「めあて」に対する「振り返り」を位置づける】

「時間がなくなってしまい十分な振り返りができなかった。」という経験はありませんか。

児童生徒が主体的に学ぶ授業づくりにおいて、「振り返り」は重要な学習活動です。

「めあて」をふまえた「振り返り」を位置づけることと合わせて、その時間をしっかり保障することにもこだわりたいでしょう。

「めあて」は、「振り返り」と対応します。

「～を考える」「～を調べる」という「めあて」は、「振り返り」が曖昧になります。「～がわかる」「～ができるようになる」という「めあて」なら、「振り返り」がはっきりします。

また、「なぜ～だろう」といった疑問形の「めあて」も、「振り返り」と対応しやすくなります。



【方法・頻度・タイミングは柔軟にする】

「振り返り」はすべての教科で取り組みますが、方法やタイミング、頻度などは、児童生徒の状況や授業の内容などに応じて柔軟に考えましょう。

「振り返り」は、「めあて」に沿って、わかったことやわからなかったことを書いたり、提示された評価問題を解いたりすることで、学習内容を振り返ります。

振り返る視点を児童生徒に与えることが大切です。



第1章 5 授業評価



授業評価は何のためにするの？

授業評価は、『今日の授業』よりも『明日の授業』を、子どもたちにとって、「楽しく分かり、力がつく」授業にするために行います。



POINT

授業評価を効果的に活かすには・・・

- ◇学校全体の組織的な取組として、授業評価を取り入れた授業改善を行っている。
- ◇授業の評価方法や、評価の活用方法等について、学校全体の共通認識のもと取り組んでいる。
- ◇学校全体で授業改善に取り組もうとする体制がある。
- ◇客観的な授業評価のもと計画的に授業改善に取り組もうとしている。

授業評価が「確かな学力の定着」につながるのは、このような流れになると思います。



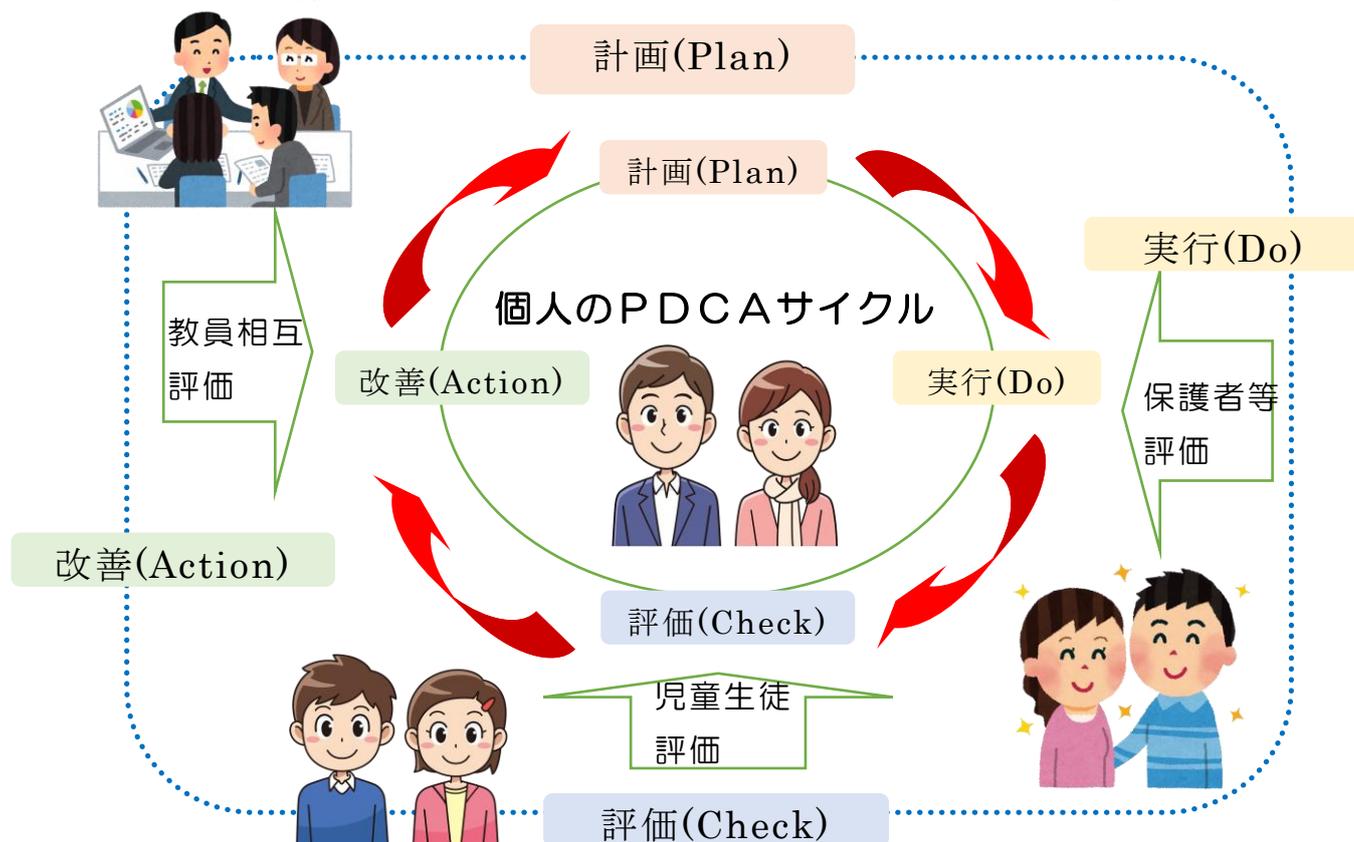
確かな学力の定着

授業力向上

評価を生かした授業改善

授業評価を取り入れたPDCAサイクル

授業評価を取り入れた体制



1 授業自己評価表

日常的な授業評価には、自己評価、児童生徒評価等、様々な評価があります。授業自己評価表は、授業改善のための一つの手立てです。授業自己評価表を活用して、自分の授業を振り返り、課題に気付くことが、授業改善への第一歩になります。

2 授業自己評価表の活用について

- 1時間の授業を想定しています。
- 授業内容によっては、一部の項目のみの評価になる場合があります。
- 評価項目に示した観点は、例です。教科の特性や発達段階に応じて、表現や内容の加筆修正をしてください。
- 授業者が自己評価に活用するだけでなく、参観者が、授業を参観する際のポイントとして活用することができます。研究授業等で活用すれば、学校全体の授業改善に役立てることもできます。
- 継続的、計画的に活用してください。

【授業自己評価表の例】

授業自己評価表		
授業日 年 月 日 ()		授業者 ()
実施学年	年生	単元名
A：十分できた B：概ねできた C：あまりできなかった		
	評価項目	評価
導 入	導入で学習の見通しを理解させましたか？ 【観点例】 ①本時でつけさせたい力（ねらい）をもとに、子どもが興味・関心をもつようなめあてや資料を提示した。 ②子どもの疑問を活かした学習課題を提示した。	A B C
	学習課題を解決するための工夫をしましたか？ 【観点例】 ①解決に適した学習形態を活用した。 ②必要な資料を活用した。	A B C
展 開	考えを整理する場を設定しましたか？ 【観点例】 ①考えを整理する時間を設定した。 ②ノートやワークシート等を活用した。	A B C
	考えを深める場を設定しましたか？ 【観点例】 ①考えを伝え合う場面を設定した。 ②話し合い活動の中で、考えを深める支援をした。	A B C
	本時の学習の振り返りをしましたか？ 【観点例】 ①学習したことを理解できたか確認した。 ②新たな問題の発見など、次時の学習への関心や意欲をもたせた。	A B C
ま と め	授業のねらいに迫ることができましたか？ (メモ)	A B C
授 業 後		

3 評価項目の解説について

評価項目 1

導入で学習の見通しを理解させましたか？

【観点例】

- ①本時でつけさせたい力（ねらい）をもとに、子どもが興味・関心をもつようなめあてや資料を提示した。
- ②子どもの疑問を生かした学習課題を提示した。

授業の導入では、子どもたちに興味・関心をもたせ、学習意欲を引き出すことが必要です。同時に、「何を・どのように学習するのか」という学習の見通しをもたせることが大切です。

◇観点 1◇ ねらいをもとにしためあてと資料の提示

「子どもたちにつけさせたい力（ねらい）」を明確にしておきましょう。

そのねらいをもとに、子どもたちが興味・関心をもつような「めあて」や「資料」を作成し、導入時に提示することで、子どもたちの学習意欲を向上させ、主体的な学びにつなげることができます。

（めあてについての詳細は、15ページを参照）

【資料提示の工夫】

子どもたちに興味・関心、疑問や問題意識をもたせるためには、資料提示の工夫が大切です。

資料提示には、次のようなものが考えられます。

- 教科書、資料集、副読本、書物、新聞
- 文章や絵、写真、調査統計表
- 具体物や実物
- テレビやビデオ等を使用した映像
- パソコン、タブレット等を使用した各種データ
- ロールプレイや体験活動

内容や目的に応じて、これらを選んだり、組み合わせたりしましょう。



カードゲームをしよう。



ピカチュウのランニングコースが、今日は工事中で・・・。

◇観点2◇ 良い学習課題の条件とは

授業で提示される学習課題として、次のようなものがあります。

- 学習のねらいに到達できるもの
- 子どもが意欲をもてるもの
- 子どもの問題意識に基づいているもの
- 子どもなりの予想が立てられるもの

資料提示を工夫し、子どもが意欲的に学ぼうとする学習課題を作成しましょう。

評価項目2

学習課題を解決するための工夫をしましたか？

【観点例】

- ①解決に適した学習形態を活用した。
- ②必要な資料を活用した。

子どもたちが興味・関心をもって意欲的に学習課題に取り組むためには、課題解決に適した支援の工夫が必要です。

◇観点1◇ 学習形態

授業では、一斉指導だけでなく「個人」「ペア」「グループ」「課題別」など様々な学習形態があります。必要に応じて位置づけ、効果的な支援を行いましょう。

(第4章54ページを参照)



◇観点2◇ 資料の活用

課題を解決するために、資料を活用することがあります。資料活用の視点として、次のような例が考えられます。

- 絵や写真から読み取れること
- 図や表のタイトル、単位、数字など
- 変化しているところ
- 全体的な特徴や共通点
- 原因や結果
- 読み取ったことについての自分なりの考え



ここが違うと思うよ。
どうかな？

評価項目3

考えを整理する場を設定しましたか？

【観点例】

- ①考えを整理する時間を設定した。
- ②ノートやワークシート等を活用する指導をした。

◇観点1◇ 時間の確保

授業の中で、子どもが考えを整理する時間をしっかりと位置づけておきましょう。また、子どもの思考の流れに合わせた授業のテンポを意識することも大切です。テンポが速すぎると、子どもが考えを整理しきれず、発言力のある一部の子どもを中心に進んでしまう授業になってしまうことがあります。

◇観点2◇ ノートの活用

ノートやワークシートは、友達の意見や集めた情報などを記録したり、自分の思いや解決のための道筋などを書いたりして、考えを整理するために活用しましょう。

また、具体的な使い方を示したり、友達の良いノート活用例を紹介したりするのも良いでしょう。

ノート指導については、この後の第2章2項を参照してください。

評価項目4

考えを深める場を設定しましたか？

【観点例】

- ①考えを伝え合う場面を設定した。
- ②話し合い活動の中で、考えを深める支援をした。

◇観点1◇ 考えを伝え合う活動

自分の考えを整理した後は、意見交換の場を設けましょう。分からないことを質問したり、友達の意見を聞いたりすることで、いろいろな角度から考えを深め、発展させることができます。

授業の「どの場面で」「どのように」意見交換の場面を取り入れるのか考え、効果的に取り入れましょう。思いを伝えることが苦手な子どもには、ペア学習⇒グループ学習⇒全体学習など、活動形態や段階の工夫が必要です。

◇観点2◇ 考えを深める支援

教師と子どものやりとりだけでなく、子ども同士の意見交換を活発にしましょう。

教師が事前に子どもの考えを把握し、指名を工夫することで、子どもの考えをつなげたり、発言する子どもの偏りをなくしたりすることもできます。



発言が苦手な子どもも思いが伝えやすい環境づくりが大切です。

普段から「思いが受け入れられる仲間づくり」「わからないことを伝えられる学級づくり」を意識したり、話し合いの進め方や発言の仕方などのルールやマナーを示したりするのも良いでしょう。

評価項目5

本時の学習の振り返りをしましたか？

【観点例】

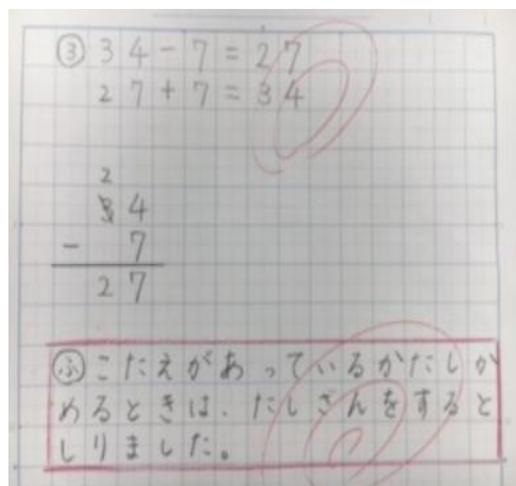
- ①学習したことを理解できたか確認した。
- ②新たな問題の発見など、次時の学習への関心や意欲をもたせた。

授業のまとめでは、学習を振り返らせる場面を位置づけます。今日の授業で、何を学習し、何が分かったのか、または、何が分からなかったのかを振り返ることにより、学習内容の定着を図ります。(1章21ページ参照)

◇観点1◇ 学習の振り返り

振り返りは、自分の言葉で表現させます。類題を解いてみるのも良いでしょう。タイムマネジメントを意識し、「時間がなかったから振り返りができなかった。」ということがないようにしましょう。

授業者は、子どもたちが振り返った内容から、授業の目標（ねらい）の達成状況を確認し、次の授業や家庭学習につなげます。



◇観点2◇ 学習意欲の喚起

振り返りや類題を書いたノートを教師が確認し、子どもの学習状況を把握するとともに、コメントを書いたり評価したりすることで、次の時間への学習意欲につなげます。

◆ チェックリスト ◆

- 自分の授業を自分で評価し、授業改善につなげている。
- 他の教員の授業を参観し、意見交換を行い自分の授業改善につなげている。
- 自分の授業を公開し、意見交換を行い自分の授業改善につなげている。

◇関連◇

理論編 50ページ

第2章 授業づくりの基盤



授業づくりの基盤

授業をつくる時、何を大切にしますか？

板書計画を立てることは1時間の授業の流れを整理することにつながります。また、板書はノート指導にもつながります。

授業中、児童生徒がどのようにノートを書いているか、机間指導、環境づくりも含めて見直してみましよう。

- 1 板書
- 2 ノート指導
- 3 机間指導
- 4 教育環境

1 板書



POINT

- ◇板書は、教師と児童生徒の思いを表現するキャンパスです
- ◇板書は、その1時間の学習の過程と、思考の流れを示します

板書の役割

- 様々な情報の提示と収集
- 思考の過程の整理
- 検討内容、論点の焦点化
- 説明、指示等、思考の補完
- ポイントの明示

- こんなことにも気をつけて
- ◇黒板消し、粉受けがきれいに掃除されていますか。
 - ◇必要なチョークが用意されていますか。
 - ◇授業に関係のないものが貼られていませんか。



では、よい板書とはどのような板書なのでしょう。以下のような条件を意識してみましよう。

よい板書の条件

- ◇◆◇1時間の学習内容が整理された板書◆◆◇
 - めあて、課題、まとめが明確に示されている
 - 授業の流れがわかる
 - 児童生徒の思考や発言が表されている
 - 丁寧に書か（描か）れている

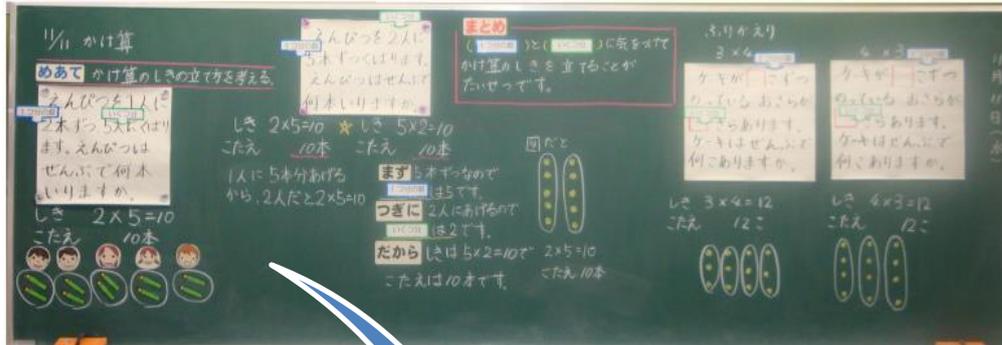
板書の組み立て

- めあての提示・・・何を学習するのか、一文で分かりやすく示す
- 課題の提示・・・めあてを達成するための課題（問題）を示す
- 展開・・・予想、思考、実験、観察、検証等を示す
- まとめ・・・課題に対して学習したことを示す

板書の技術

- 正確に、丁寧に、きれいに、速く書く（描く）
- 板書の瞬間に児童生徒の思考が途切れないようにする

〔2年生 算数の板書計画例〕



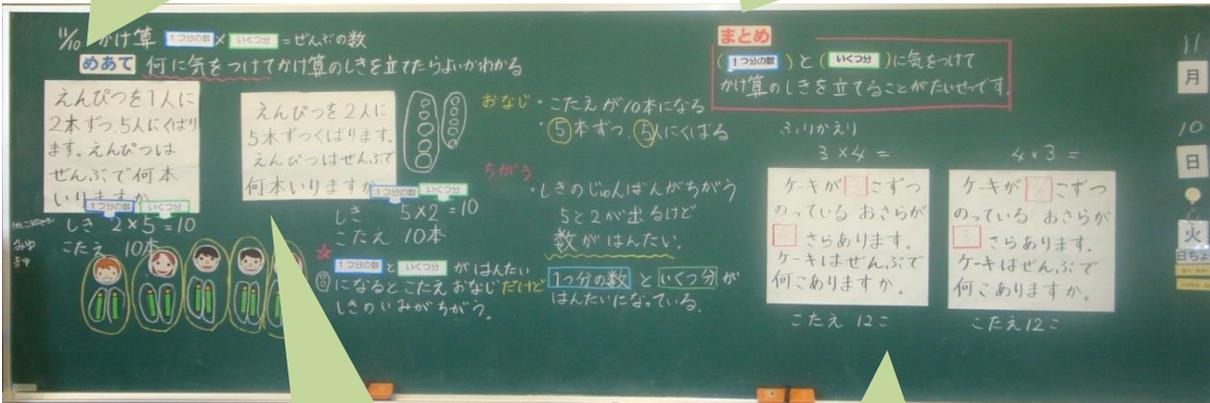
これが、実際の授業の板書だよ。

北立誠小学校の若手の先生が、研究授業の前に考えた板書計画だよ。



めあてはその一時間で何をするか分かりやすく書きましょう。

今日の授業で分かったポイントをまとめましょう。



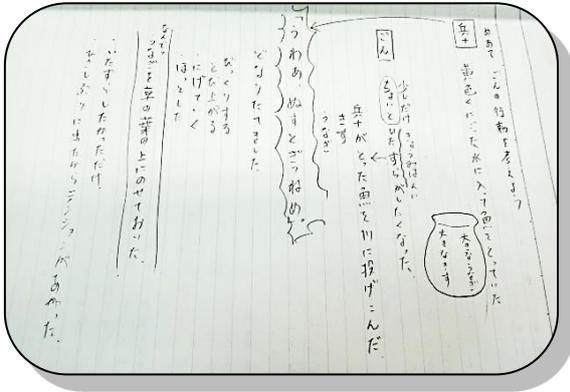
めあてを達成するための課題を明示しましょう。

学習したことを確認し、活用できるようにしましょう。

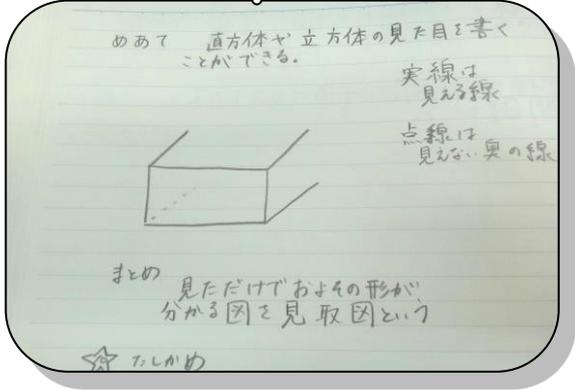
〔紹介した板書の指導案〕

学習過程	学 習 活 動
導入	1. 2つの問題の式と、答えをくらべる。
展開 1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ① えんぴつを1人に2本ずつ、5人にくばります。えんぴつは、ぜんぶで何本ありますか。 </div>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> めあて 何に気をつけてかけ算の式を立てたらよいか分かる。 </div>
展開 2	2. めあてを確認し、2つの問題の式から違いを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ② えんぴつを5本ずつ、2人にくばります。えんぴつは、ぜんぶで何本ありますか。 </div>
まとめ	3. ペア同士で考え方を伝え合う。 4. 自分の考え方を発表する。 5. 本時のまとめをする。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> まとめ (「1つ分の数」と、「いくつ分」)に気をつけてかけ算のしきを立てることがたいせつです。 </div>
展開 3	6. 2×5 、 5×2 の違いを考えた上で、振り返りの1つとして、 3×4 、 4×3 の式に合う問題を作る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ケーキが□こずつのっているおさらが、△さらあります。ケーキはぜんぶで何こありますか。 </div> 7. 作った問題を発表する。 8. 振り返り

【板書ノートの紹介】



この先生は、できるだけ毎時間板書計画をノートに書いているそうだよ。



子どもたちが、「今日は、こんなことを学んだんだ。」と実感できるようにするために、日々の板書の工夫やノート指導が大切です。



板書構成の例

あらかじめ、書くことが分かっていることは、画用紙などに書いておく。

色チョークは統一感をもって使う。

めあて：○○○○	子どもの考え	子どもの考え	まとめ：○○○○
課題1：	課題2：		振り返りスペース 活用問題や発展的な問題、新たな課題等
分かっていることや聞かれていること等、問題の分析と子どもの考え	子どもの考え 児童生徒の言葉で		

● 板書のチェックポイント ●

□ 筆順、字形、字の大きさに注意して、丁寧に書いていますか？

<字の大きさのめやす>

小学校1年生：18～20cm 2年生：16～18cm

3年生：14～16cm 4年生：12～14cm

5年生：10～12cm 6年生：5～8cm

読みやすい板書、整然とした板書を両立させるためには、文字の大きさに差をつける工夫も考えられます。

大	～		小
1	2	3	4
画数の多い漢字	画数の少ない漢字	4以外のひらがな	こ・と・め・る

(参考) 文部科学省ホームページ



- 子どもがノートをとるスピードに気をつけて書いている。
- 書いたことはできるだけ消さないようにしている。
- 色チョークの使い方を決めている。
- 定規・分度器・コンパス等の器具を正しく使っている。
- 子どもにずっと背を向けていない。

板書計画は、授業の流れの整理です！

板書計画は教師の授業の流れの整理です。

教材研究にあまり時間がとれない時、メモ程度でいいので板書計画を書き（描き）て残しましょう。そして、1時間の授業が終わる度に、その板書計画に少しでも書き込みを入れて残しておきましょう。

そうすることで、オリジナルの授業改善マニュアルができあがるのです。そして、よい板書はノート指導につながるのです。

2 ノート指導



POINT

- ◇ノートは授業の記録です
- ◇ノートは成長の記録です
- ◇ノートは自分の思考を表現するキャンパスです
- ◇ノートは学習の振り返りのためのツールです

ノートの役割

授業でノートを使う頻度はかなり多いと考えられます。児童生徒は、ノートをどのように使っているのでしょうか。ノート指導の前に、児童生徒のノートを見て実態を把握することが大切です。



ノートには、子どもの学習の道筋が具体的な形として残るとともに、考えたことや調べたことなどが学習の記録として残されていることが大切です。

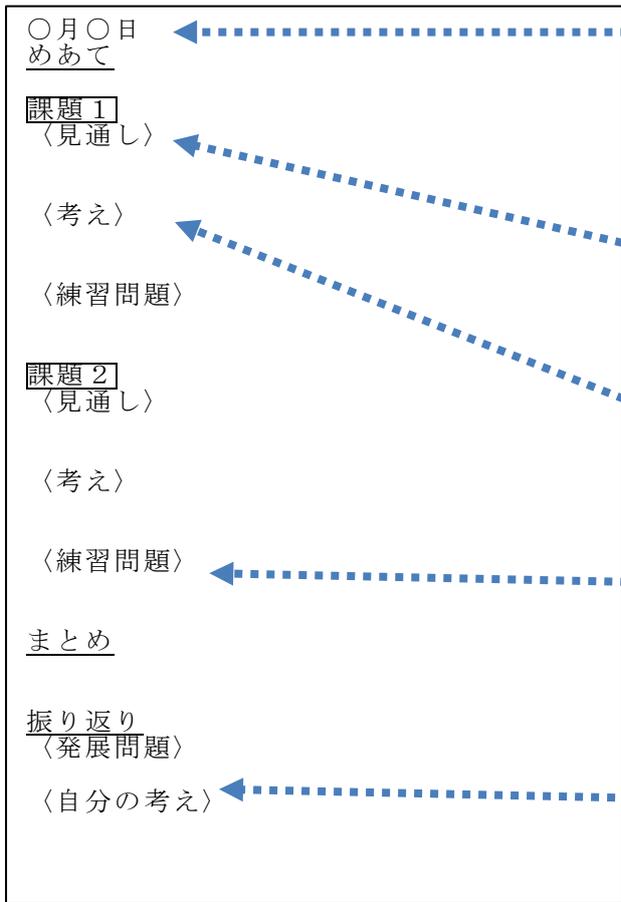
日々の授業の中で、教師にとっても欠かせないものです。

子どもの立場から	教師の立場から
理解が深まり、学習内容を定着できる。	学習状況を把握できる。
自分の考えを整理できる。	学習習慣を改善できる。
学習を振り返ることができる。	評価に役立てることができる。
その後の学習の資料とすることができる。	コミュニケーションツールとして活用できる。

基本的なノート指導

- 下敷きを敷いて書く
- 丁寧、見やすく、分かりやすく書く
- 定規を使って書く（描く）
- 日付、教科書のページ、単元名などを書く

基本的なノートの例



発展的なノート指導

- 予想や発見したことを書く
- 読み取ったことを書く
- 話し合ったことや話し合っただけ感じたことを書く
- 絵や図表を使って描く
- ポイントがわかるように書く
- 新たな課題を書く

発展的なノートの例

○月○日

め あ て

課題1

〈練習問題〉

課題2

〈練習問題〉

まとめ

振り返り

〈発展問題〉

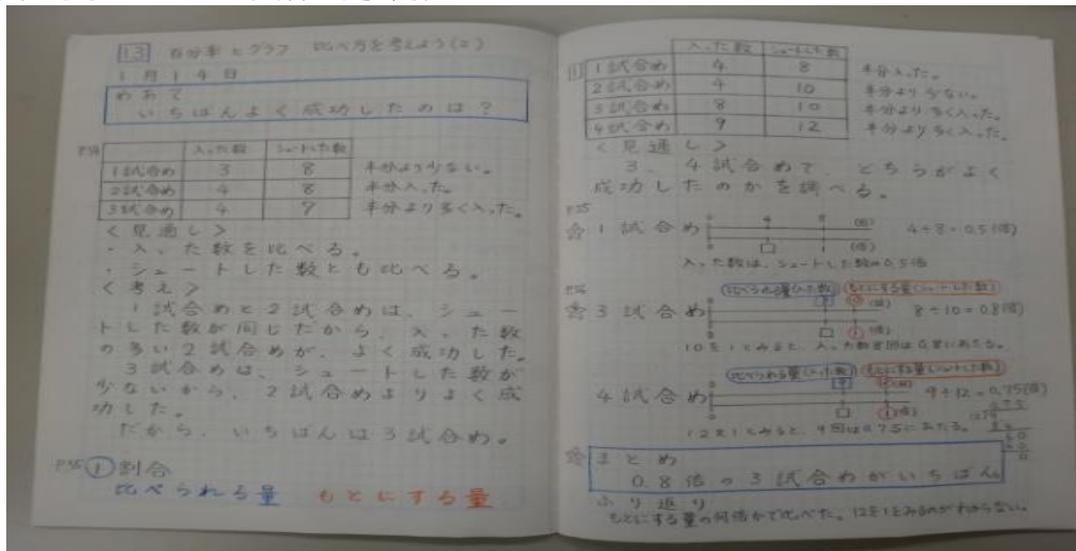
線を引いて余白を作る。

基本的に板書を写すスペース

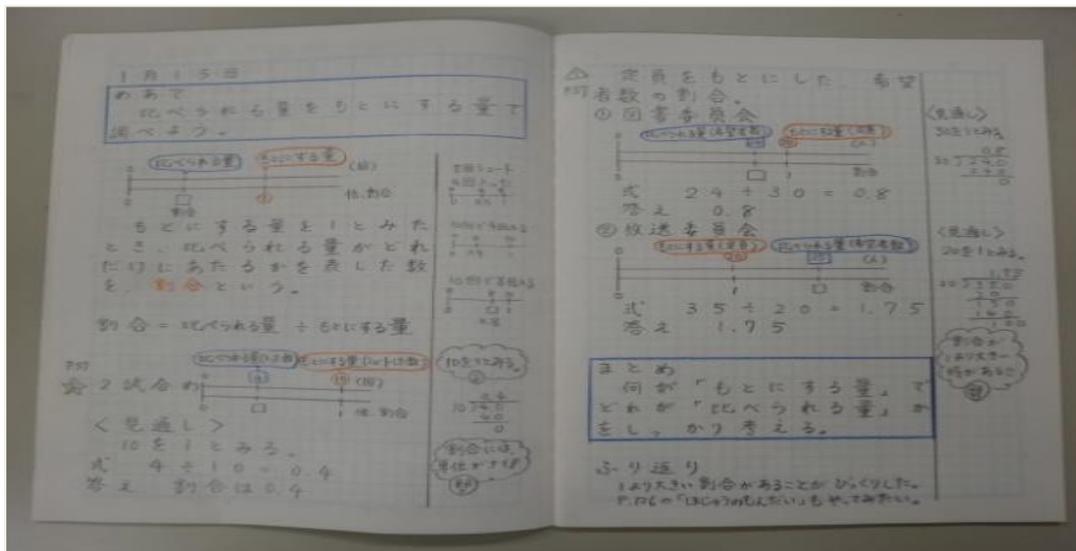
ポイントや気付いたこと、自分の考えを書き込んでいくスペース

The diagram shows a notebook page layout. At the top left is the date '○月○日'. Below it is a header box containing 'め', 'あ', and 'て'. A vertical line is drawn to the right of the header. The page is divided into sections: '課題1' (Topic 1) with '〈練習問題〉' (Practice problem) below it; '課題2' (Topic 2) with '〈練習問題〉' below it; 'まとめ' (Summary); and '振り返り' (Reflection) with '〈発展問題〉' (Developmental problem) below it. Three callout boxes with arrows point to the layout: the top one points to the line and says '線を引いて余白を作る。' (Draw a line to create white space.); the middle one points to the space between the line and the text and says '基本的に板書を写すスペース' (Basically, space for copying blackboard writing.); the bottom one points to the right side of the page and says 'ポイントや気付いたこと、自分の考えを書き込んでいくスペース' (Space for writing down points, things noticed, and one's own thoughts.).

(基本的なノートの具体的事例)



(発展的なノートの具体的事例)



ノート指導のチェックポイント

- 鉛筆や下敷きの使い方、書くときの姿勢について指導している。
- 板書の意味を考えながら書くように指導している。
- 友だちの考え、ポイント等、付け加えて書くように指導している。
- 授業中もノートの使い方を指導している。
- ノートを定期的集め、子どもの実態を把握している。
- ノートの評価の観点をあきらかにしている。

学習の記録はノートに書くことが基本です。また、児童生徒の意欲を高め、学習の効率化を図るために、ワークシートの活用も考えられます。学習のねらいや内容、保管等も考慮し、活用の方法を考えましょう。

3 机間指導



POINT

- ◇机間指導は、一人一人が大切にされるための指導です
- ◇机間指導は、一人一人の学習状況を把握するための指導です
- ◇机間指導は、一人一人の困り感や達成感を把握するための指導です

学習状況の把握

- 課題を把握しているか。
 - ・・・児童生徒の学習状況が、学習のねらいを実現しているかを観察するため
- どこでつまずいているか。どこまで進んでいるか。
 - ・・・一人一人の学習状況を把握し、個に応じた指導につなげるため
 - ・・・指示した内容や活動が適切であるか判断し、授業の改善に役立てるため

一人一人に応じた机間指導

- 視線を同じ高さに合わせ、寄り添う気持ちで指導する
- 否定せず、肯定的に捉えて指導する
- 友だちの視線を気にしていないか配慮して指導する
- 他の児童生徒への配慮を忘れず指導する



学級全体への目配りを忘れず、他の児童生徒への思考を妨げたり、中断させたりすることのないように配慮しましょう。



計画的な机間指導

- どの場面で机間指導を行うか計画しておく
 - ・・・指導助言、ほめる、思考の深まり、コミュニケーション、ポイントづくり、評価、改善 等
- どの児童生徒に対して重点的に机間指導を行うか考慮しておく
 - ・・・限られた時間で学習の状況を把握するために、あらかじめ「何を見取るか」などの観察の視点を決めておき、計画的に机間指導を行います。

一人一人の課題や、学級全体の課題の状況や傾向を知り、個に応じた指導を随時行うことができるということです。

机間指導を効果的に行うことにより、授業改善に活かすこともできます。



机間指導のチェックポイント

- 一人一人の学習状況を的確に把握している。
- 一人一人に応じた机間指導を行っている。
- 目的と計画性をもって机間指導を行っている。

一人一人を大切にする授業は理想です。

しかし、机間指導を行える時間は限られています。その限られた時間で児童生徒の実態や状況を把握することができれば、休み時間や放課後、家庭での補充学習が可能となります。

机間指導を効果的に行うことにより、一人一人の実態が把握でき、一人一人が大切にされる授業が可能となるのです。

教育環境



POINT

- ◇よい教育環境は、学習の効率を高めます
- ◇よい教育環境は、学習の意欲を高めます
- ◇よい教育環境は、生活規律を高めます

授業の環境づくり（学習規律）

- 授業の準備ができている
- はじめと終わりの挨拶がきちんとできる
- 姿勢を整えることができる
- 順番を守ることができる
- 最後まで話すことができる
- 話を最後まで聞くことができる
- ルールの必要性が理解されている



学習規律や生活規律など、一定のルールのもとに安心して学べる環境が保障されていることが大切です。

ルールと規律は、現状よりもさらによりよい状態にするために必要なのです。子どもたちは、そのルールや規律がどうしても必要なのか理解することができなければ、それらを守ることはできません。「そのルールと規律がないと困る」という状況を体験しなければ、ルールや規律の必要性は感じにくいのです。

学習活動の様々な場面において、ルールや規律の意味について話し合うことが大切です。

教室の環境づくり

- 整理整頓されている
- 学習に役立つ情報が掲示されている
- 一人一人の最新の学習の記録が掲示されている
- 目的、テーマ別に配置が考えられている
- 学校、学年で統一されている部分がある
- 視覚に過敏に反応する児童生徒への配慮がされている
- 一人一人の学習道具が整理整頓されている
- 児童生徒に興味関心をもたせるスペースが確保されている

学習規律や生活規律など、一定のルールのもとに安心して学べる環境が保障されていることが大切です。活動しやすい場づくりは、学習の効率を高めます。

子どもたちが、進んで学習に向かえるような雰囲気作りを心がけましょう。



学級のルールや当番表、話し方や聞き方など、分かりやすく、見やすく掲示することが大切です。



子どもたちの学習の記録を掲示し、学習意欲を喚起しましょう。また、掲示物はできるだけ更新するように心がけましょう。

スペースを生かした環境づくり

- 廊下や壁面、階段をテーマに合わせて学習の場として活用する。
- 体育館や運動場、体育倉庫、庭園等もテーマに合わせて学習の場として活用する。



昇降口や廊下の掲示板も、子どもだけでなく、保護者や地域の方にも見ていただけるように、テーマを決めて、工夫して掲示しましょう。

● 教育環境のチェックポイント ●

- 学習規律や環境は学校や学年で統一されている。
- 学習規律や環境は常に見直されている。
- 気付いたときに環境を整えている。

教室は、児童生徒の学習や共同生活の中心となる場です。児童生徒にとっては一日のほとんどを学校で過ごすので、子どもの生活の中心の場です。

まずは、教室の環境を整えましょう。

教室が整理整頓できなくなってくると、それは児童生徒からの危険信号です。同じように、学校全体の教育環境も、児童生徒の学習にふさわしいか、教職員全員で見直してみましょう。

第3章 ユニバーサルデザイン教育



なぜ、教育にユニバーサルデザイン？

UD（ユニバーサルデザイン）という言葉は、皆さんも一度は聞かれたことがあると思います。「その理念を教育に？」「何か難しそうだな・・・？」と思いがちですが、少しの工夫と目の前にいるすべての子どもたちへの思いやりで、教室の雰囲気は少しずつ変わっていきます。

すべての子どもたちが、安心して生活＆学習できる学校になるために一緒に取り組んでみましょう。



POINT

ユニバーサルデザイン教育の視点は・・・

- ◇すべての子どもたちのことを考えた教育環境の整備
- ◇特別支援教育の手立て・支援との関係性
- ◇ハード面とソフト面とのバランス
- ◇失敗してもいいから何かを変えていく！

1 津市教育委員会の考えるユニバーサルデザイン教育

ユニバーサルデザイン教育といっても、ピンとこない方も多いと思います。まずは、目の前にいる子どもたちのために、教育環境を整えることです。そのことが、個別的配慮の必要な子どもたちにとっても、やる気や自信をもたらします。また、それぞれの子どもたちの居場所を作ることもつながります。

そこで、津市教育委員会では、皆さんと一緒に取り組んでいくユニバーサルデザイン教育を、「TSUD（津ーディー）教育」と言いかえて、展開していきます。

これには、皆さんの理解と協力とやる気が必要です。すべての子どもたちが、「学校っていいな！！」って思えるような教育を進めていきましょう。

TSUD(津一ディー)教育

T (大切な) S (すべての子どもたちが)
U (ウキウキ) D (できる) 教育

① 教室の環境整備

子どもたちを見る視点としては、視覚的な支援を大切に考えます。言葉での情報と視覚的な情報が一緒に提示されれば、とてもわかりやすく、不安を感じていた子どもたちも、自信をもって活動ができるようになります。

Q1 黒板の周りにたくさんの掲示物はありませんか？

➡ 掲示物等を整理するだけで、授業に集中しやすくなります。

ex. 授業の時はカーテンで隠す。はがれそうなものは取る。

Q2 机はきれいに並んでいますか？

➡ 床に印をつけるだけで、きれいに整頓しやすくなります。

ex. 見やすい印が大切です。グループ時などは色を変えましょう。

Q3 ロッカー等は整理整頓されていますか？

➡ 実物の写真等で示しておくのと片付けの見通しがつきやすくなります。

ex. 良い見本をその場所に提示しましょう。



Q4 視覚的な見本・手本が掲示されていますか？

➡ いつも確認できることは、安心感につながります。

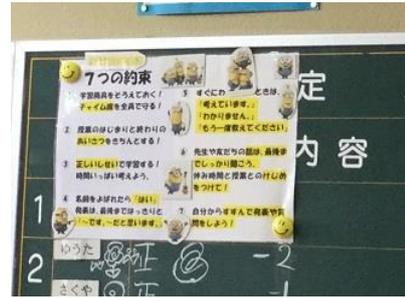
ex. 言葉とイラスト等の併用が分かりやすいです。



Q5 集団のルールは、どのように提示していますか？

➡ 声かけと視覚的な掲示のバランスが大切です。

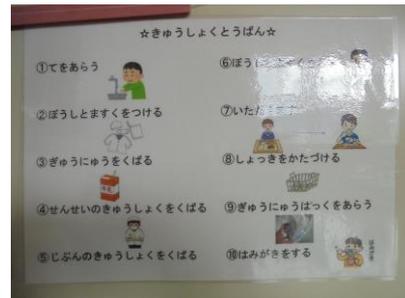
ex. 当番表などは、わかりやすく。



Q6 場所を考えずに、提示していませんか？

➡ その場所に合った掲示を心がけましょう。

ex. 「歩きましょう」は、廊下に。



② 授業の流れ

子どもたちの困り感として、見通しの不安や情報の選別の難しさ、言葉だけの理解のしにくさなどがあります。始まりから終わりまでが視覚的にわかりやすく、「今すること」が明確になるような配慮が大切です。

Q1 授業の流れをわかりやすいスケジュールで提示していますか？

➡ 見通しが持てると、安心感が大きくなり、集中しやすくなります。

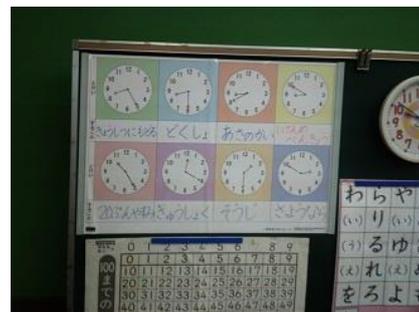
ex. 経過がわかるような工夫も必要ですね。



Q2 板書の仕方は、子どもたち目線で考えていますか？

➡ ノートとの整合性、ポイントへの注目、色使い、字の大きさ等に配慮します。

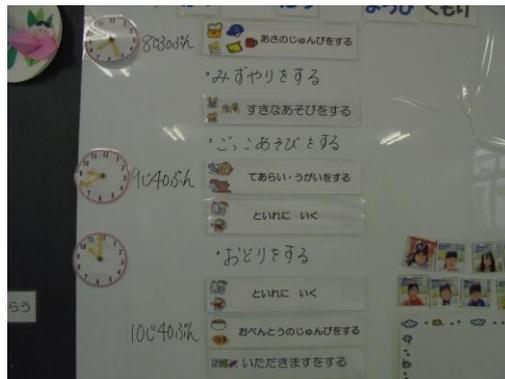
ex. 書き始めや、切り替わりを明確にしましょう。



Q3 取り組むことがすぐにわかる配慮がありますか？

➡ マークや残り時間の提示で、視覚的にわかりやすくなります。

ex. 「今は〇〇ページ」というコーナーがあってもいいですね。



③ 説明・声かけ・机間ほめ

子どもたちの困り感として、短期記憶の困難さや、聴覚過敏による聞こえの選択の難しさ等があります。伝えたいことは、ポイントをしばって短くします。また、声のトーンや話し手と聞き手の役割なども、工夫することが大切です。

Q1 説明が多くなりすぎていませんか？

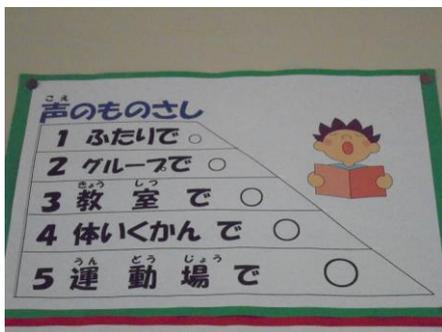
➡ 話の始めを忘れてしまわないような説明にしましょう。

ex. 説明を短く、話すスピードを考えましょう。また、説明と図や表の同時使用を心がけましょう。

Q2 声のボリュームは、見本になるように工夫していますか？

➡ 「声のものさし」を提示したら、教師が見本となりましょう。

ex. 子どもたちのモデルは先生ですよ。



Q3 机間指導視は、注意が優先していませんか？

➡ 「先生がくると褒めてもらえる。」そういう机間指導をしたいですね。

ex. 先生が近づくと隠す。そんな子は、自信がないなどの理由があるのだと思います。

④ 教材の工夫

興味関心が持てたり、必然性があったりする教材が有効です。目の前の子どもたちのワクワクした思いを、意識した教材研究をしましょう。

Q1 興味関心を引きつける教材を、準備していますか？

➡ 視覚的支援の教材は、大きな理解へとつながっていきます。

ex. 変化があったり、活動があったりと、具体物の活用も効果的です。

Q2 プリント教材での配慮は、考えていますか？

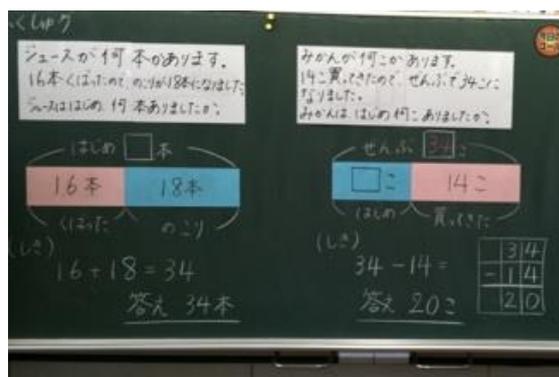
➡ みんなが答えられる問題を一つ以上は出題しましょう。

ex. 一つ答えて、ほめられて、自信につながります。

Q3 言葉の説明と一緒に、図や表のまとめがありますか？

➡ 直感的に見てわかることは、わかりやすい授業になります。

ex. 言葉と図の併用で説明すると、指導のテンポがうまれます。



2 タイムマネジメントをしっかりとしよう。

チャイムと同時に開始し、チャイムと同時に終わります。キッチンタイマーやストップウォッチ、時間の決まっている BGM などを CD で流すなど、しっかり時間を確保しましょう。

3 全部を変えようと思わず、一つ一つ変えてみよう。

何かをやろうとする時は、それなりの準備とやる気が必要です。また、いろいろな見解を気にして、それだけで気疲れしてしまいます。今、取り組んでいることを、いきなり全部変える必要はありません。

子どもたちの心に、少しずつウキウキ感が増えていけば、それは教室全体で加速拡大し、徐々に浸透していきます。

4 子どもたちをしっかりと感じること、学校全体で共有すること。

設備や環境は整っても、そこに“子どもたちへの思い”（心のユニバーサルデザイン）がないと、ウキウキを感じさせることができなくなる可能性があります。

決して近道はありませんが、その思いを持ち続けることで、子どもたちとのつながりはより近いものになっていきます。

すべての先生方で思いを共有しましょう！



Let's
TSUD (津-ディー) 教育!

チェックリスト

- いつも教室環境を意識している。
- 掲示物等は、場所を考えて掲示している。
- 授業では、スケジュールを提示している。
- 視覚的な提示や教材を準備している。
- “気になる子”の情報交換をしている。
- 子どもたちをよく褒める。
- わからないことは、すぐに相談できる。

**学習形態の工夫は必要ですか？**

教室という空間の中で、子どもたちは様々な活動を行います。何も無い空間と違い、教室には机と椅子があり、机と椅子の置き方で、学習活動も変わってきます。教師のねらいにあった、机・椅子の配置が重要です。

**POINT**

学習の効率化と学力の向上、そして子ども同士をつなげることを意識することが大切です。

- ◇どんなねらいで座席を決めるか
- ◇どんなねらいでペア学習をさせるか
- ◇どんなねらいで班活動をさせるか
- ◇どんなねらいで一斉授業をするか

座席の重要性

子どもたちの楽しみの一つが席替えです。「誰の隣になれるかな。」「誰と同じ班になれるかな。」など。すべて、くじ引きで決める先生もいるかもしれませんが、いざ新しい席になってみて、教室が落ち着かなくなり、今回の席替えは失敗したなという経験はありませんか。

たとえ失敗しても、席替えには教師のねらい（思惑）が必要ですし、その失敗を次に活かすことと、日々変化する友達関係を把握して座席を考えることが重要です。

様々な学習形態

- 一斉学習
- ペア学習
- グループ学習
- 個別学習

一斉学習

【メリット】(例)

- 同じ課題、手段、歩調で授業が進んでいく
- 同じ経験をすることができる
- 全員が黒板を見ることができる
- 児童生徒の状況を一望できる
- 平等である

【デメリット】(例)

- 一人一人の個性が発揮できない
- 取り残される児童生徒が出てくる
- より発展的な学習を求める児童生徒には不満が出てくる
- 一方的な教師の教え込みの授業になりがち
- 児童生徒が受け身になりがち

すべての児童生徒に、話は伝わっていますか？

すべての児童生徒に、興味・関心を持たせることが大切です。



ペア学習

【メリット】(例)

- すべての児童生徒に発言の機会が与えられる
- 相談ができる
- 人の考えを知ることができる
- トレーニングパートナーとして、スキルを高めることができる

【デメリット】(例)

- 人間関係が構築されていないと、学習が進まない(コミュニケーションが必要)
- 授業規律が確立されていないと、無駄話が多くなり、授業に集中できない

「この問題わからんから、教えてくれへん？」

学び合える関係を、日ごろから作っておくことが重要です。



グループ学習

【メリット】(例)

- 子ども同士で自発的な学習になる
- 自分の考えを深め、広げることができる
- 学習の遅れている子、消極的な子も話し合いに参加できる

【デメリット】(例)

※ペア学習と同じ

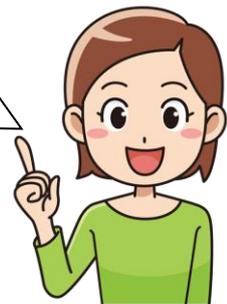


協働的な活動にするために、教師の適切な働きかけが必要です。

グループの人数は？

3人から4人・・・意見をまとめる活動
課題を解決する活動

5人から6人・・・情報交換
アイデアの共有



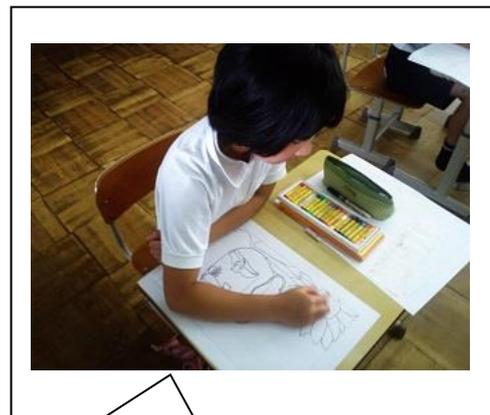
個別学習

【メリット】(例)

- 児童生徒それぞれのペースで学習可能
- 作品の制作、漢字の習得、計算練習などに有効
- 授業の振り返りなどの場面にも使える

【デメリット】(例)

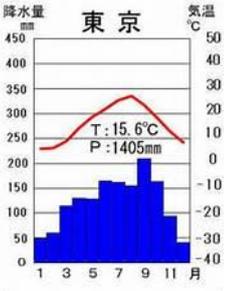
- 個々の児童生徒にアシストが必要
- 進度の差、集中の度合の差が生じる



机間指導で、個々の状況を把握し、必要に応じた声かけが重要です。

学習形態活用1 中学1年 社会（地理分野）

めあて【雨温図を作成し、読み取ることができる】

	学習内容・学習活動	指導上の留意点	資料等
導入	<ul style="list-style-type: none"> 津市では、一年間にどれくらい雨が降るか、考える。 津市の各月の平均気温はどれくらいか、考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 降った雨の積算の高さが雨量となることを、理解させる。 	天気予報の文言
展開	<p>気温と降水量の表から、雨温図</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の〇〇ページを参考にして、ワークシートに雨温図を作る。 	<p>【一斉学習】</p> <p>今日の授業の、めあて・内容について説明します。導入なので、多くの児童生徒が知っている話をします。</p> <p>【4人班でグループ学習】</p> <p>折れ線グラフと、棒グラフに注意しながら、子どもたちで試行錯誤して、雨温図を作ります。</p> <p>雨温図の読み取りについて、各々が気付いたこと・読み取れたことを発表し合います。</p> <p>協働学習が目的です。</p>	
	<p>雨温図から読み取れることは？</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループに異なった都市の雨温図を配付し、それぞれの特徴を読み取る。 特徴について、各班で読み取った内容を、発表する。 	<p>【一斉学習】</p> <p>各班の発表を聞いて、学習します。落ち着いて聞くことを目的に、一斉学習の形に戻します。</p>	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> まとめ 振り返りシート記入 	<ul style="list-style-type: none"> 今日のまとめを行う。 一人一人に、今日の授業について、振り返りシートを記入させる。 	

学習形態活用例2 中学3年 社会（公民分野）

めあて【消費税の増減について、自分の考えをもつことができる】

	学習内容・学習活動	指導上の留意点	資料等
導入	<ul style="list-style-type: none"> 大人になると、一年間でどれくらいの種類の税を払っているか考える。 消費税の仕組みを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 税の必要性、国民の義務についておさらいをする。 	教科書〇〇ページ参照
展開	消費税増税・減税について、自分の意見をまとめ、各ペアで交流する。		
	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに沿って、自分の意見をまとめる。 各自の意見を全体で発表し、自分の考えをまとめる。 	<p>【一斉学習】</p> <p>今日の授業の、めあて・内容について説明します。導入なので、身近な事柄を導入とします。</p> <p>消費税の仕組みについては、教師が簡潔に説明します。</p>	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> まとめ 税の仕組みをノートにまとめる。 振り返りシート記入 	<p>【ペア学習】</p> <p>日ごろ発表の少ない子どもにも、発表の機会を設けるために行います。</p> <p>自分の意見を相手に伝える時の方法（セリフ）を説明すると、スムーズに進みます。</p>	
		<p>【個別学習】</p> <p>他の意見を参考に、最終的な自分の意見もちます。自分の意見が変化することもあります。</p> <p>⇒振り返りシートに記入</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えがどう変化したか、理解がどのように深まったか等について、振り返りシートに記入させる。 	



座席決めは、子どもたちの関係を築く上で、重要な要素の一つです。それを元に学習の効率化と学力の向上をめざし、様々な授業形態を取り入れていきましょう。

◆————◆ チェックリスト ◆————◆

- 意図的な座席、班にしている。
- ねらいをもって、学習形態を選んでいる。
- 学習形態にあった課題等を設定している。
- 授業中、子どもをつながりや学び合いを意識できている。

津市版授業改善マニュアルの活用について

子どもたち一人一人が、自己と社会との関係性を自覚し、よりよい社会の実現に向け、未来へ飛躍できる人材となるためには、問題解決に向けた考え方や行動についての能力を高める学習を展開することが大切です。

そのためには、今までの授業のあり方を見直し、子どもたちが「わかること、できること」を実感できる授業改善の取組を推進することが必要です。

「津市版授業改善マニュアル」が、学校全体で効果的に活用され、津市の未来を担う子どもたちに確かな学力を身に付けることへとつながることを願っています。

授業改善マニュアル「理論編」・「実践編」 別冊「教科編」

 「理論編」・・・子どもたち一人一人に身に付けるべく「21世紀を生き抜く力」とは、それらの力を育成するために必要な教員に求められている資質能力とは、そして、次期学習指導要領が目指しているもの等、今後めざしていく教育の基本的な方向性をまとめました。

 「実践編」・・・子どもたち一人一人に「わかった」「できた」を実感させるための授業づくり（授業形態、ユニバーサルデザイン等）、授業改善の視点等をまとめました。

 別冊「教科編」・・・各教科等（特別支援教育、国語科、算数・数学科、社会科、理科、英語科）において、それぞれの課題を明確にし、その改善を図るための授業づくりの視点等を具体的に紹介しています。

授業改善マニュアルの活用

学力・学習状況調査等の結果を踏まえて授業改善を行う場合、校内研修会において、国の動向を踏まえた子どもたちに付けたい力を協議する場合、経験年数の少ない教員が、授業づくりについて学びたいと考えている場合など、用途に応じて「理論編」、「実践編」、別冊「教科編」を効果的に活用してください。

また、板書やノート等の具体的な指導方法や各教科における授業改善等は、すぐにも実践に活かせるので、必要なところからご活用ください。

【活用事例1 校内研修会にて】

今回の研修会では、『理論編』を使って、授業改善について話し合います。



教科の授業改善については、『実践編』を参考にしたいと思います。

【活用事例2 日常会話から】

初心者で分からないことばかり・・・



先輩の先生方に聴いたり、授業を見せていただいたりすることは勉強になります。また、『授業改善マニュアル』では、いろいろな視点からのヒントが得られると思うので、ぜひ活用してみてください。



『理論編』の活用

● 「理論編」では、次の内容を紹介しています！



- 学力向上のための取組の検証
- 教育の目指すところ
- 教員の資質・能力
- 学習指導要領の解釈
- 授業力向上の視点
- 子どもにつけさせたい力
- 授業力改善の構成要素
- 授業改善とは
- 家庭学習の提示
- 参考資料



自分の授業を振り返り、どこを改善すべきか知りたいけど、どうすればいい？



学習指導要領が改訂されると聞いたけど、どのような方向に向かっているのかな？



マニュアルの『理論編』では、次期学習指導要領の目指す方向性や授業改善に向けてのポイント等を紹介しているから、参考にするといいね。



● 「実践編」「教科編」では、次の内容を紹介しています！



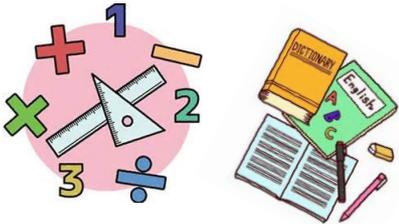
○ 授業づくり

- ・ 児童生徒理解
- ・ 授業構成
- ・ 教材解釈
- ・ 授業展開
- ・ 授業評価

○ 授業づくりの基盤

○ ユニバーサルデザイン

○ 学習形態





○ 各教科等における視点

- ・ 特別支援教育
- ・ 国語科
- ・ 算数・数学科
- ・ 社会科
- ・ 理科
- ・ 英語科









学習改善マニュアルの『実践編』に板書やノート指導が具体的に紹介されているから参考にしよう！



板書やノート指導が大事だと言われているけど、どうしたらいいかわからずに困っています・・・。

子どもたちにとって分かりやすい授業にするためには、どんな工夫をしたらいいのかなあ？



マニュアル『教科編』の特別支援教育を参考にしてみるといいよ。「子どもたちに分かりやすく楽しい授業」が紹介されているよ。



索引

あ行

- 一斉学習 55
- ST分析 9
- 教えて考えさせる授業 14

か行

- 学習課題 29
- 学習形態 29 54
- 机間指導 43
- 教育環境 45 49
- 教材解釈 11
- 教材開発 12
- グループ学習 56
- 個別学習 56

さ行

- 自己評価 26
- 児童生徒理解 2 12
- 指導観 13
- 主体的な学び 17
- 資料の活用 30
- 授業構成 4
- 授業評価 25
- 授業作りの基盤 33

な行

- ノート 30 39

は行

- 発問・指示 8 17
- 板書 34
- ペア学習 55

ま行

- めあて・振り返り 8 15 21
- 28 32

や行

- ユニバーサルデザイン 48

編集

津市教育委員会事務局 教育研究支援課

監修

森脇 健夫 三重大学教育学部教授

協力

市川 伸一 東京大学大学院教育学研究科教授

参考

- 「ポイントは授業構成」（神奈川県立総合教育センター）
- 「大阪の授業 STANDARD」（大阪府教育センター）
- 「観点別 S-T 分析ソフト」（大阪府教育センター）
- 新編 新しい算数 教師用指導書 研究編（東京書籍）
- 子どもの笑顔が生まれる学校改善のためのガイドライン（大阪府教育委員会）
- 「教えて考えさせる授業」を創る（市川伸一 図書文化社）
- 補習授業校教師のためのワンポイントアドバイス集 文部科学省HP
- 子どもが主体的に学ぶ授業づくりをするために 鳥取県教育委員会HP
- 特定非営利活動法人 ILEC 言語教育文化研究所 HP
- 神奈川県立総合教育センターHP
- 新編 新しい算数 教師用指導書研究編（東京書籍）
- 学ぶ意欲とスキルを育てる（市川伸一著）
- 「教えて考えさせる授業を創る」（市川伸一著）
- 「教えて考えさせる授業の挑戦」（市川伸一著）

津市版授業改善マニュアル

実践編

編集・発行 平成28年11月

津市教育委員会事務局

教育研究支援課

津市西丸之内23番1号
